

# 花乃井だより

学校  
通信

令和5年3月14日(火)

第121号

大阪市立花乃井中学校

## 素晴らしい卒業式 !!

74期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

お天気にも恵まれて、とても素晴らしい卒業式でした。思えば、皆さんは入学式のその日からマスクでの生活が続きました。しかし卒業式には晴れてマスクをとて式典を行うことができました。

卒業証書を受け取った姿は、とても立派でしたよ。歌を歌う時はマスク越しでしたが、皆さんの声は体育館内によく響いていました。これからも体に気をつけて頑張ってください。

保護者の皆様方、お子様方のご卒業、誠におめでとうございます。また、この3年間、学校の教育活動にご理解・ご協力を賜りまして、本当にありがとうございました。お子様方の成長された姿をご覧になると、これまでのさまざまな記憶が思い出され、感無量のことと存じます。これからそれぞれの道へと旅立ちますが、まだまだ保護者の皆様の支えが必要な多感な年頃です。どうか、これからも温かく見守ってくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 学校長式辞から

……さて、卒業生の皆さん、まずは本日、こうして無事に卒業式を行えるありがたさと喜びを噛み締めたい

と思います。思えば、皆さんの中学校生活は大変なものでした。未曾有の感染症に苦しめられた3年間。その上、校内では工事が続き、さらに活動が制限されました。そんな中でも、皆さんはよく頑張ってくれました。もともと狭かった運動場がなくなっても、何とか工夫をして練習してくれた部活動。市内の中学校がほぼ中止にした職場体験も元気にやり

切ってくれました。体育大会の花中ソーランも、文化祭のクラコンも、練習場所や時間のない中で、後輩たちに見事な演技を残してくれました。そして、修学旅行での「平和宣言」。これには本当に感服しました。

広島を訪れるにあたって平和学習に取り組

《たくさんの祝辞や祝電が届きました。》



んできた皆さん。皆さんは、平和宣言の中で国内外の情勢も分析し「みんなが安心して暮らせる世界を平和な世界だというのなら、今の世の中は平和とは言えません。」と結論付けました。そして、「戦争から目を背けるのではなく、知識を深め、平和のために何ができるのか、何をすべきなのか、考えること」を誓いました。

また、平和宣言の中では「長い年月を経てもなお、苦しんでいる人が大勢いる、ということを忘れてはいけません。」という一節がありますが、ここで私は思い出したことがあります。

私は、かつて中国の大連というところで3年間生活したことがあります。その時に中国各地に残る日本との戦争の傷跡を巡りました。当時の日本の軍隊が中国の人々にしてしまった絶対に許せないこと。傷ついて苦しんでいる人々の姿、そして、そこにたたずみ涙ぐむおじいさん、おばあさんの姿を目の当たりにしました。しかし、そんな過去があったにもかかわらず、大連の人々は私に優しく接してくれました。『中国を侵略した日本軍……』とは冠しても『日本人が……』とはけして言わないしっかりした歴史認識をもっていました。

皆さんも平和宣言の中で現在、戦争・紛争中の国々にふれ、攻撃の被害に涙し、恐怖と不安におびえる人々の思いとともに、攻撃する側の国の出身ということだけで、差別されている人々の悲しみにも言及してくれました。私が接してきた中国の人々と同じように、

皆さん的心にも確かな人権感覚がしっかりと育つることをとても頼もしく思います。

そんな皆さんならこれからもきっと大丈夫。皆さんは「当たり前」の生活ができるということに感謝することができ、その「当たり前」が世界中に広がるように活躍できる人材です。また、命の尊さを理解し、いじめ・差別・偏見を無くし、いろいろな立場の人が受け入れられるような環境づくりを目指せる大人材です。仲間と常に連携を取りながら、思う存分、自らの夢に向かって突き進んでください。

さあ、卒業生の皆さん。堂々と胸を張って、そして笑顔で、この花乃井中学校を出発していきましょう。皆さんは私と共にこの花中の門をくぐり、共に3年間の日々を過ごしました。皆さんに「貴重な3年間をありがとう」と感謝するとともに、皆さんの幸せを祈って、これからも応援していくことを誓って、式辞いたします。



《グラウンドのサンドアート》



《教室の黒板アート》